

農業

平成29年2月号
会誌 No. 1622



目次

巻頭言

ある農業者の集まり……………吉田 岳志 3

論壇

乳用牛改良を巡る日本の事情……………信國 卓史 4

農業懇話会

6次産業化の現状と展開方向……………小林 茂典 6
質疑応答…………… 22

先進農業者懇談会

担い手としての企業の農業参入

カゴメの『トマトと野菜』ビジネスについて……………羽布津真典 25
意見交換…………… 42

表彰農家訪問

リンゴの新技术開発・実践による安定経営の実現……………福元 將志 53
-菅井勝英氏を山形県朝日町に訪ねて-

農業・農村の現場から

若手女性農業者の仲間づくりからブランドづくりへ……………澤野 久美 62
-群馬県利根沼田地域「TNしありー'S」-

世界の農業は今

韓国農業と FTA樋口 倫生 67

私の経営と志

農業の魅力を伝えていきたい金子 健斗 71

東京農業大学収穫祭から (第1回)

気候変動に適応する熱帯作物 熱帯作物学研究室 73

統計情報

平成27年 農業総産出額及び生産農業所得 (全国) 78

農政情報

大日本農会だより 80

ミニ情報

「食と農の景勝地」取組認定地域 79

表紙写真説明

雪踏み作業 (北海道常呂郡訓子府町)

北海道のオホーツク地方・十勝地方は、全道の7割、全国の6割近くを占めるジャガイモの大生産地帯である。これら道東の地域は冬の気温が低く積雪量が少ない土壤凍結地帯として知られるが、1990年代以降、初冬の積雪が増えて土壤が寒気にさらされず、土壤凍結深が浅くなる傾向が増えている。このため、収穫時に取り残されたイモが凍結で死滅せず雑草化する、「野良イモ」の問題が顕在化するようになってきた。そこで、雪を割り広げて地表を露出させる「雪割り」や、写真のようなタイヤローラーで雪を圧縮して熱伝導率を上げる「雪踏み」によって土壤凍結深を制御する技術が農研機構北海道農業研究センターで開発され、十勝地方を皮切りに普及面積を広げつつある。

ここ訓子府町はオホーツクの中で先進的に雪踏みによる凍結深制御が導入された地域で、若手農家を中心にJA や普及機関等と連携しながら土壤凍結深の制御の技術向上に取り組んでいる。また近年は、土壤凍結には野良イモ退治だけではなく、碎土性の向上や肥料流亡の防止等さまざまな効果があることもわかってきて、これらの研究開発と実証に向けた動きも始まったところである。

(北海道農業研究センター芽室研究拠点 小南 靖弘)